

平成22年度 行政提案型協働事業 報告会における協働事業審査会の意見

この協働事業審査会の意見は、平成23年5月15日（日）に開催された、行政提案型協働事業報告会における協働事業審査会委員からの意見やアドバイスをまとめたものです。

事業名	ひらつか花アグリ 花のある景観づくり事業 (事業開始年度：平成21年度～)		
団体名	明日の金田を創る会	担当課	農水産課

(1) 良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

- ・昨年度、指摘された「ユースボランティアの取り込み」「ボランティアを含めた勉強会」等の点が着実にこなされている点が良い。
- ・平塚市の協働事業の先駆けとなっている。
- ・「花のある景観づくり」という主旨においては成功事業である。活動頻度も多く、活動実績も季節ごとにあり、内容が濃い。
- ・市民として専門家でなくても参加しやすく、しかも楽しめて、テーマ設定が良かった。
- ・参加者数が増加しているところも素晴らしい。市民活動団体が主体的に盛り上げているのが伝わってきた。
- ・費用対効果も良い。これだけのことを事業者依頼したら相当な金額ではないか。
- ・市民と行政の関係も良好に見える。ネットワークの構築は今回の活動の一番の価値だと思う。
- ・協働ではなく委託の色合いが強いため、地域の方々のたゆまぬ努力による成果というイメージを持った。2年目は、前年の課題（古川排水路沿いの植栽、若い人のボランティア参加）を克服し、ステップアップしている。また、3年目に向けてフォーラムの企画や人材育成などの新たな目的に向かおうとする姿勢が素晴らしい。また、担当課との協力体制も良かったと思う。
- ・組織強化、若年層へのアプローチ、昨年の課題に取り組んだことを評価。
- ・行政は花アグリオープンによって、周辺景観の整備と参加の促進という目的と、団体については、発足したばかりなので組織体制の充実という目的が協働という形で結びついたものとする。
- ・21年度に構築したネットワークにユースボランティアが加わり、より発展的な協働パートナー団体に成長していることは大変評価できる。
- ・真夏日の暑さを避けるため、皆さんが朝早くから除草する作業などを見て、とても素晴らしいと思った。

(2) 課題の改善や今後への助言など

- ・団体の組織体制を充実させ、事業の充実性をより図ってもらいたいし、新しい事業計画も示していただきたい。
- ・評価シートにある「動員数」という見方は捨てて欲しい。この事業では、同じ活動を行う「仲間」という視点が大切。
- ・良い結果が出たので、まずは継続する仕組みを考えていただきたい。次の目的やテーマを決めて、レベルアップをして欲しい。
- ・協働事業終了後の団体としてのビジョンをこの1年間で検討していただき、地域にとってなくては

ならない団体となって活躍して欲しい。

- ・集客面、業績面で苦戦している花菜ガーデンを盛り上げる活動ができないか。花菜ガーデンとの連携的な展開については、両者連携してより一層の工夫をした事業展開をして欲しい。
- ・植物や野菜は季節感が重要なので、収穫祭等のイベントにトライしてみتهいかがか。例えば、お化けスイカのようなシンボリックなものに取り組むと話題性があり、注目を浴びやすいと思う。
- ・事業の告知・プロモーション・市民への情報発信で工夫が欲しい。外部から訪れる人たちにも、活動をしっかりとPRしていただきたいと思う。
- ・より市民を巻き込めるようイベントやPR・広報など、事業拡大への支出を増やしていく方が良いと思う。
- ・景観の創造ということで、テーマをつけてPRしてくことも大事だと思う。
- ・作業時飲料費については、できるだけボランティアの自己負担をお願いし、むしろ、作業時の救急箱、薬などに充てる方が良いと思う。
- ・協働というより「下請」の色が濃いと思った。今後は単なる委託とは違う協働の色を出して欲しい。
- ・場所的に北側に位置していて、人の動きが回りにくいと思われるので、回遊的な方策が必要ではないか。
- ・昨年度の審査会からの意見にあった「地域の子供達との体験学習などの交流」が実施されなかったことは残念であり、今年度には是非実現されることを望む。
- ・金田地区全体へフィールドを広げるような展開ができれば素晴らしい。
- ・団体登録している人も65人に増えたという報告を受けたが、植栽のエリアが広く、しかも年間を通じて雑草が多いところなので、もっと皆さんの活動を地区の人たちに知っていただき、除草などの協力をお願いしたらどうか。
- ・今後、企業（種苗店やアグリバイオなどの業種）との協働も検討しても面白いと思う。
- ・事業費を削減するため、多年草を植えるなどの工夫をされていることを評価するが、それと同時に農協や花き生産者などに皆さんの活動を知っていただくことで、肥料や花の苗などの提供をお願いしたらどうか。
- ・エリアの一角に平塚養護学校の生徒の皆さんと一緒に花壇づくりなどを検討してはどうか。

事業名	地場産の花を理解する農業理解促進事業「花育」 （事業開始年度：平成22年度～）		
団体名	花育ボランティア「花伝道師」	担当課	農水産課

（１）良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

- ・活動の広がり良く分かった。
- ・民間ではなかなか入り込めないで、幼稚園や保育園にターゲットを絞った事業は良いと思う。
- ・保育園や幼稚園における花育はある程度の成果があったようだ。これが今後の柱になるのでは。
- ・花カフェが次につながるイベントになったのは良かったと思う。
- ・多くの市民に花育活動を通して、花にふれあって欲しいという団体の思いが伝わってきた。企画内容は良いが、いろいろ多すぎるという反省意見もあったが、参加者の満足度が高かったとの意見も聞かれたので、今後に期待したい。

（２）課題の改善や今後への助言など

- ・「花育」というコンセプトは良いが、事業が総花的であり、コアが弱かったと思われる。
- ・事業の実施メニューが5つと多く、どこに力点を置いているのか分からない。もう少しポイントを絞って重点的に行っていくというのも大切ではないか。
- ・事業数を絞るという方法もあるが、事業拡大のためにはそれに対応できる組織強化を目指して欲しい。
- ・行政側の立場からの「この事業のゴールはどこか、対象が誰か、どういう効果を期待しているか。」を明確にした上で、事業のアイデアを出したら良い事業が生まれそうな気がする。事業内容のフォーカスをはっきりさせ、事業の蓋然性の追求をすべき。
- ・行政がこの事業にどのように関わるかももう少し明確にすべき。予算・広報だけでなく、もっとできることがあると思う。
- ・市民活動団体側も平塚において、しかも平塚市との協働事業でこの事業を行うことの主旨・意義を考えたらもっと良くなると思う。
- ・地産地消の観点から、生産者との協働をより工夫してゆく必要がある。
- ・1年を振り返って、生産者とのコミュニケーションが少なかったことを課題に挙げているが、協働事業の意義も考え、もっとパートナー同士でどうしたら良くなるか十分話し合っていってほしい。
- ・「生産者とのコミュニケーションが少ない」といった課題をどのように解決していくのか。Win-Winの関係（相互に利益のある関係）作り、生産者にも「メリットがある」ことの気付きを与えること。
- ・生産者にもインセンティブを設けて、もっと参加を募れないか。コミュニケーションの問題もあるかも。
- ・生産者とのふれあい事業、花きの植栽体験などは参加人数が少ない。企画自体に問題があったか、告知が足りなかったのでは。
- ・評価シートの「十分に協議を行ったか」の項目は、団体と行政の考え方に大きな差がある。協働の基本は対話からなので、十分に話し合いをして、お互いに理解し、より充実させて実施していただきたい。
- ・団体の自己評価に「2」があり、率直で良い。具体的に、このことが障壁となったのか、それとも

クリアできたのか。行政側はなぜ「4」なのか。

- 予算と実績に大きく差異があった。上に振れなくてよかったが、策定の精度・費用対効果はどうだったのか。次回に活かして欲しい。
- 八幡山の花植えをもっと盛り上げて欲しい。洋館は雰囲気が良いので、綺麗になれば人が集まるし、市民の癒しにもなる。幼稚園も近いし効果は高い。
- 保育、幼稚園からの依頼の件数が多いことや、事業数が多いことで、協働の協議が足りなかったのではないかと思う。
- 平塚市の花を知ってもらうテーマについて段階的、計画的に進めていっても良いのではないか。
- 行政提案型協働事業であるので、旅行業法上での障害は事前にきちんと調査をし、対処しておく必要があったと思われる。

事業名	平塚市防災フォーラムの開催「わが地域の防災の取り組み 今、地域で何ができる？」 (事業開始年度：平成21年度～)		
団体名	ひらつか防災まちづくりの会	担当課	防災危機管理課

(1) 良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

- ・「中高生を巻き込んだ自主防災組織の新たな展開が見られた」点が素晴らしい。今後、市民全体の活動に展開して欲しい。
- ・東日本大震災経験の中からも、この「防災」という問題がさらにクローズアップされてくる。
- ・フォーラム参加者 410 名は大変な成果。すでに信頼を得ている団体、活動であることを表しており、もはや協働事業の域を超えているともいえる。市民の防災意識の高さは、対外的にも誇れるレベルだと思う。
- ・このような活動は地域住民同士のつながりを形成する意味でも意義が大きい。東日本大震災のこともあり、その重要性は市民にも再認識されたのではないかな。
- ・2年目ということで自治会との協力関係も良好で、さらにステップアップしている点が良い。地域力の底上げにつながっている。
- ・行政との連携がとれていて、事業目的以上の結果を出している。東日本大震災後は、各自治会の防災意識が高まり、より一層地域防災との関係が密接になっていて素晴らしい。
- ・限られた予算の中で効果の大きな事業だと思う。費用対効果も十分であろう。団体単独では賄いきれない広報費用（印刷代等）を行政が負担したのが大きい。
- ・アンケート調査の結果を踏まえて、フォーラムの開催が出来たのが良かった。協働のプロセスが良かったのではないかなと思う。
- ・団体の事業展開の手法や準備、その熱意に感嘆・感心をした。
- ・最初の21年度の防災フォーラムも良かったが、今回はそれ以上の内容であり、会場に来られていた人も基調講演やパネリストの話を真剣に聞いていた。今後も各地域の防災活動の事例発表などを通じながら防災意識の高揚を図っていくことは大切だと思う。

(2) 課題の改善や今後への助言など

- ・「地域リサーチ・インタビューの実施」をもっと今後の活動展開につなげて欲しい。インタビュー項目にもその点を織り込めたらと思います。
- ・両者のすり合わせ、仕事量のコントロールにおいて工夫が必要では。団体の熱意を感じた反面、行政側の目指したものが見えない点については残念であった。
- ・団体側の強い防災に向ける思いに、行政側が必死に応えようとしているといった印象を受ける。役割分担を明確に、目的を共有することができると相手にとって無理がないと思う。
- ・事業の一部（防災のお手伝い）が実行できなかったとのことだが、このようなことはなるべく避けて欲しい。達成可能な範囲の目的設定を望む。
- ・行政提案型協働事業による防災フォーラムの開催は、今回で終わるようだが、この2年間の内容が素晴らしかっただけに残念。特に、東日本大震災が発生して、誰もが地域防災力を高めることの必要性を感じている時期であり、形は変わっても今後も引き続き市民活動団体の視点で、地域防災懇談会などは継続してほしい。

- ・協働や単独などの形はどうであれ、今後もこの様な活動を継続して欲しい。
- ・自治会へのアンケート実施や、地域防災懇談会等で幾つかの課題が明らかになってきたし、今後これらの課題をどのようにしていくのが協働事業の大きなテーマの1つになるのではないかな。
- ・アンケート調査を分析した結果を、是非、次の施策の展開につなげて欲しい。
- ・今回の事業を別のことにも活かさないかな。他自治体でも参考にしたいのではないかなと思う。
- ・この2年で出た素晴らしい成果を、今後はどう展開していくのがとても重要であるし、他市への良い事例としてどんどん発信して欲しい。

事業名	男女共同参画推進紙芝居製作及び啓発事業 (事業開始年度：平成21年度～)		
団体名	平塚てづくり紙芝居の会	担当課	人権・男女共同参画課

(1) 良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

- ・「事業内容の成果」の評価点が双方とも高く、事業が確実に進んだと思う。
- ・「男女共同参画」のテーマを子どもたちへ啓発するには苦労があったのではないと思うが、子どもたちに分かりやすく紙芝居に展開できて良かった。
- ・男女共同参画というデリケートなテーマを紙芝居に落とし込んで子どもに伝えるのは非常に難しい作業である中、子どもには分かりやすいストーリーができたと思う。
- ・子どもたちの声により、目的が達成されていることが分かる。
- ・行政単独では施策展開が難しい事業をユニークなノウハウをもった団体との協働事業として実施することで、事業の効果や先駆的な試みとして十分機能したものになったと思われる。
- ・上演回数も多く、精力的であるところは非常に高く評価できる。
- ・紙芝居は今後も使えるので、費用対効果も十分である。
- ・脚本、絵のプロから指導を受ける機会が得られたのは良かったのではないかな。今後も期待したい。
- ・1年目の課題を乗り越え、一段と良い成果物ができたのではないかなと思う。団体と行政との関係も、協働で行うことで出た問題を、よく協議し一つ一つクリアしていき、互いの努力が見える。
- ・権利関係（成果物の帰属）について、明確にしようとしたことが良かった。著作権、著作権など見落としがちなので、新たな問題点を確認できた。
- ・今回の報告会で、てづくり紙芝居の会の皆さんが良い作品を製作しようという気持ちもわかったし、今後も上演や上演指導だけではなく、平塚を舞台に良い作品を多く作っていただきたいと思う。

(2) 課題の改善や今後への助言など

- ・将来的には、団体はてづくり紙芝居の手法をもっと違ったテーマに展開していき、行政は男女共同参画としてのテーマ「母子家庭問題」「女性の働き方」「ワークライフバランス」などに協働のパートナーを見つけ、事業展開して欲しい。
- ・著作権や著作権は上手く話し合いが出来ているようだが、このような案件における著作権問題は、市民活動団体側もテーマの公共性を考えて、ボランティア位の広い気持ちで取り組むことが必要であると思う。ただ、行政提案型協働事業である点や作業の大変さを考えたら、行政側も十分配慮すべきである。良い関係を保っていただきたい。
- ・芸術作品の製作費の判断はとても難しい。どこからどこまでを協働と捉えるか、また、役割分担の点では団体の占める割合がとても多いと思うが、費用負担についての配慮が欲しい。
- ・事業内容が分かりにくかったのが残念。自己満足で終わってしまわないように、成果をアピールしていくことが重要だと思う。
- ・子どもから大人までの啓発として、成長に合わせた男女共同参画のテーマについて事業展開を続けて欲しい。
- ・団体の構成メンバーが少なく、23年度の事業展開をスムーズに行うためや、今後継続して事業を行うためにも、団体の組織力を高める必要があると思う。

- ・紙芝居を通じて、幼児期から性別役割分担意識にとらわれることなく、お互いを認め合い、男女共同参画社会の実現に向けた啓発は大切なことだが、まだまだ発表の場は公立の保育園や幼稚園に限られているようである。紙芝居の会の皆さんの負担も増すと思うが、今後、行政とも話し合って私立の保育園等にも活動の場を広げてほしいと感じる。
- ・1つの作品は10部作って、貸し出しを行っているようだが、あまり利用がされていないみたいだ。男女共同社会の実現がなぜ必要なのか、そしてこの紙芝居で何を訴えたいのかなどの解説書をつくって、もっとたくさんの人に利用されるようにPRしていったらどうか。

事業名	こころと命のサポート事業「自殺対策啓発事業」 （事業開始年度：平成22年度～）		
団体名	浜岳中学校区子ども読書活動推進協議会	担当課	くらし安全課

（１）良かった点（さらに伸ばして欲しい点）

- ・双方とも高い評価点であり、協働事業としての成果が得られたと判断できる。「いのちの尊さを伝える本 vol.2」などの成果物につなげたことも良かった。
- ・小学生、中学生の段階で命の尊さを理解させ、短絡的な自殺行為に予防線を張ることは極めて意義のあることであると思う。テーマ設定は素晴らしい。
- ・読書活動を通して、命の大切さを伝えていく、また対象も児童を決めているので、事業としては理解しやすいのではないかと。たくさんのボランティアの方々が無理なく楽しく活動している点も良い。行政と団体が共通理解で事業を遂行している点がとても良い。
- ・事業拡大（地域拡大）のため、広報PR活動を行政が担当するという部分に、協働のメリットはあると思う。
- ・協働事業を行った団体も、市の担当課も、受益者の満足度を除いては、すべて「5」という評価になっている。事業を振り返って、お互いの理解が深まり、信頼が増さなければ、ここまでの評価はしないと感じた。

（２）課題の改善や今後への助言など

- ・自殺予防という難しいテーマを双方で目的共有し、具体的な事業に進めて行って欲しい。
- ・平塚市における自殺の原因分析はされているのか。次回取り組み内容に反映させて欲しい。
- ・読み聞かせは他の小学校、中学校でもどんどんやるべき。行政側がリードして各学校へ説明する機会を設けたり、実施している現場を見てもらうことにより、市内の他の学校にも広げて欲しい。
- ・落語は、もっと広い場所で行うことにより参加人数をもっと多くできないのか。ちょっとコストがかかりすぎて学校ごとに実施するのは難しいが、協働事業でやるからにはもっと多くの人に参加してもらった方が好ましいと思う。
- ・生徒の親を啓蒙することで、身近な存在から子どもたちに語ってもらうのも効果があると思う。
- ・公益事業という視点から、今後は多くの他の地域へ展開できるようお願いしたい。
- ・とても意義のある事業なので、今後地域が広がる場合対応できるように、事業拡大に向けて組織強化に努めて欲しい。
- ・他の地区へのPR活動も必要ではないか。
- ・読み聞かせや落語会が地域を限定した事業展開となっている。23年度も同様と思われるが、行政と団体との協議を活発にして、全市的な事業展開を図る必要がある。
- ・特定の地域だけでなく、将来的には全市域への広がりを期待しているが、どんなにそうした呼びかけをしても、結局はパートナーとなる団体の理解が得られなければ、それも叶わない。今後も、地域は限定されても、本や絵本を通じ、命の大切さや尊さについて長く伝える活動を続けていってほしいと思う。